



▲子どものいる世帯、妊婦のいる世帯に配布される線量計

「さい」とあいさつしました。今回の線量計配布は子どもや妊婦のいる家庭に線量計を長期に渡って貸し出すことで村民が放射能を自主的に把握し、健康の管理に役立てることを目的としています。線量計の配布は0歳から15歳の子どものいる世帯と妊婦の

いる世帯、約500世帯が対象となります。配布を受けた保護者は、「外の線量を計って子どもたちを外で遊ばせることができるか判断したい」「しっかりと線量を計って子どもたちのために役立てたい」と線量計の使い道を話しました。教育課では、配布対象者のいる家庭に連絡を取りながら線量計の配布を進めたいとしています。

線量計配布式が飯樋幼稚園で行われ保護者の代表に村長から線量計が渡されました。村長は「村では、大人が子どもの線量を責任を持って管理してほしいという思いから保護者全員に線量計を用意しました。子どもたちの動く場所を把握していただき、放射能の勉強会などあわせて子どもたちの線量を減らすために役立ててください」



▲配布式の様子

12/26

飯樋幼稚園で線量計配布式が行われました

配布の対象は約500世帯

12/19

国による除染モデル実証事業始まる

国が行う除染モデル実証事業が草野大師堂地内で始まり除染が進められています。

この実証事業は、工区を西と東に分け、農地や宅地などを総合的に除染し、その効果を検証しながら効果的な除染方法を見つけようとするものです。

平成23年12月から平成24年2月にかけて西工区の除染が行われています。

西工区は、北が草野幼稚園から南の公民館裏の新田川河川敷まで、西は草野行政区と深谷行政区の境から東の県道から草野小学校に向かう道路までとなっています。また、西の境界は山林の尾根に沿って設定されています。

除染では農地の表土剥ぎ取りのほか、宅地では屋根の洗浄や庭の表土剥ぎ取り、居久根の樹木剪定など家の所有者と個別に打合せをしながら各家庭の事情に合わせた除染を行いました。

西工区の除染は2月末までに終了し、結果は3月に公表される予定です。また、3月からは東工区の除染が始まる予定です。



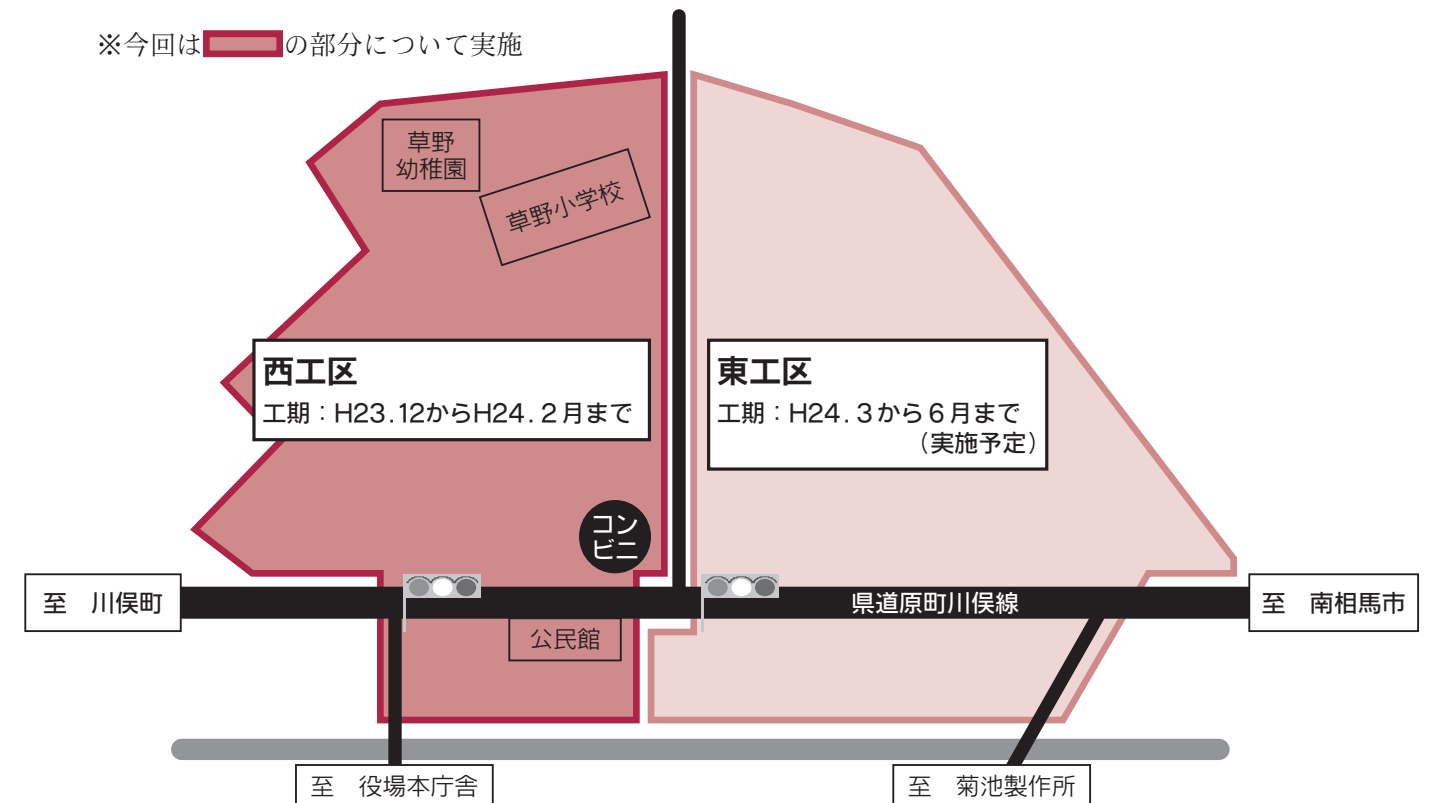
▲工場施設の除染の様子



▲宅地除染の様子

除染モデル実証実験区域略図

※今回はの部分について実施



1/16

除染事業に関する組織立ち上げ会議を開催

第2回除染事業に関する組織立ち上げ会議が福島市役所飯野支所会議室で開かれ、そうま農業協同組合や商工会、森林組合の代表らが出席しました。

会議では平成24年度より本格的に進められることが予定されている国の放射線除染作業について、村としてどの様に関わり、進めていくかについて話合われました。

今回の会議は12月27日に行われた第1回会議に続いて2回目の開催となります。

出席者からは「除染の作業は通常の仕事とは別なものとして捉える必要がある」「村が単独で除染を行うことを要望するのではなく、国や大手企業から村ができることを提案してもらうことも必要ではないか」「新たな組織を立ち上げて体制づくりをするより、振興公社の組織を見直して活用することはできないか」

除染に関する組織体制づくりについては今後も話し合いが続けられます。



▲会議の様子



▲出発式の様子 (24日 飯野出張所)

◀美ら海水族館。亜熱帯の生物を見学してきました (26日 本部町)



▲沖縄県平和祈念公園で献花する子どもたち (24日 那覇市)

▶戦時中日本人が避難した巨大なガマ (洞窟) で説明を受ける子どもたち (25日 読谷村)



▲交流会での琉球舞踊体験の様子 (25日 読谷村)



◀沖縄県米軍基地「キャンプ瑞慶覧」見学では震災時に米軍が被災地を支援した「トモダチ作戦」について学びました (27日 宜野湾市)



12/24~12/27

沖縄でのままでの旅を実施



▲沖縄県読谷村(よみたんそん)にある残波岬サンセットビーチで記念撮影

村教育委員会が主催する「沖縄でのままでの旅」が実施され、村の小学6年生42人が沖縄での研修を行いました。

沖縄県読谷村を中心に3泊4日で行われた「ままでの旅」は、沖縄の歴史や文化、自然を体験することや命の大切さや平和の尊さを学び、自然の

美しさの感動を友だちと共有することを目的に実施されました。また、今年度は昨年3月の東日本大震災で離れ離れになってしまった友だちとの再会もあり、その絆を深めることができました。

24日に飯野出張所前で出発式が開かれ、参加した児童を代表して白石小

学校の武藤彰吾君が「友だちとたくさんさんのことを学んでいきます」と誓いの言葉を述べました。

子どもたちは、読谷村(よみたんそん)にある戦時中に人々が避難した巨大なガマ(洞窟)などを見学し戦争の悲惨さを学びました。

また、美ら海水族館の見学では沖縄特有の海洋生物について学びました。

子育て相談室

— お気軽にご相談ください —

高校受験

飯館中学校の三年生にとって、高校受験が間近です。今年は学習環境がまったく変わってしまっていますので、生徒たちにとってはこれまで以上に試験のときを迎えています。

学習環境の変化の一つは避難校舎での授業の問題です。残念ながら、避難校舎では飯館村にあった校舎での学習と同じような成果は期待しにくいところがあります。それは、実験や実習ができなかったり、資料不足で理解が深まらない授業が続いているからです。そんな環境の中で、生徒たちが真剣に学習に励んでいます。とても立派です。

また、住環境の変化のことも見逃せません。ほとんどの生徒が余裕のある家から間取りの少ない家への避難を余儀なくされ、専用の勉強部屋を確保したり、周囲の物音に影響されない学習時間を生み出すことが容易でない状況にあるようです。それでも、一生懸命に家庭学習に取り組む生徒たちがたくさんいます。頭が下がります。

受験校に提出する何人かの生徒の「志望書」を読みました。将来、大学を出たら飯館村に帰って復興に力を尽くすと書いてある志望書がありました。心強くまたうれしく思いました。飯館村の若者たちの克己心、意志力、そして展望力は実にすばらしいと感じます。

生徒たちの高校受験の願いが成就するようにともに祈るうちはありませんか。

飯館中学校スクールカウンセラー
臨床心理士
海野 和夫

○ 教育相談は飯館中学校 (☎024-566-3100、3118) へ電話でお申込みください。



1/8
平成24年
飯舘村成人式

平成24年飯舘村成人式が飯野学習センターで行われ、平成3年4月2日生まれから平成4年4月1日生まれまでの新成人80人（男40人・女40人）の新たな門出を祝いました。

式には65人が出席し、菅野村長が式辞を述べ、新成人一人ひとりに成人証書を手渡しました。



▲新成人を代表して誓いのことを述べる熊久保さん

また、新成人代表の熊久保亮太さん（伊丹沢）が、「いつ飯舘の地が元に戻り安心して暮らせる日が来るかまだわかりませんが、しかし、私たちは社会人として成長し続け、飯舘村を復興していくだけの力をつけていきます」と誓いの言葉を述べました。



▲成人証書を受ける新成人



▲お母さんクラスもお祝いにかけつけました

葉を述べました。式終了後、成人式実行委員会（橋本廉（れん）実行委員長）主催の記念パーティーが行われ、新成人らは歓談しながら同級生たちと互いの成人を祝いました。今回の成人式には8人の新成人が成人式振支援袖実行委員会（園山明生子代表・島根県）から提供された振袖を着て式に臨みました。



▲成人式を終えた新成人（写真上は記念パーティーの様子）

